

三重県経済の動向

No.491

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は持ち直しの動きが一服したものの、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：持ち直しの動きが一服

6月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比0.5%増で23か月ぶりの増加。6月のコンビニ販売額（速報）は2.2%増で2か月ぶりの増加。家電大型専門店販売額（速報）は11.5%増で5か月ぶりの増加。ドラッグストア販売額（速報）は9.2%増で39か月連続の増加。7月の乗用車販売台数（普通＋小型＋軽）は4.3%増で3か月ぶりの増加。小型（△3.3%）は3か月連続で減少したものの、普通（＋11.6%）は4か月ぶりの増加、軽（＋4.0%）は2か月ぶりの増加。6月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は、23.1%増で6か月ぶりの増加、3か月後方移動平均も6か月ぶりの増加。

住宅建築：足踏み

6月の住宅着工戸数は、前年比16.5%増で2か月ぶりの増加。3か月後方移動平均は4.2%増で9か月ぶりの増加。持家（△11.7%）は3か月連続で減少したものの、貸家（＋34.5%）が2か月ぶりの増加、分譲（＋124.3%）が3か月ぶりの増加。床面積（＋8.8%）は7か月ぶりの増加。

設備投資：持ち直し

6月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比37.7%増で2か月ぶりの増加、3か月後方移動平均では2か月連続の増加。7月の貨物自動車販売（普通＋小型＋軽）は、前年比1.3%増と2か月ぶりの増加。3か月後方移動平均では2か月連続の減少。普通貨物（△15.7%）は2か月ぶりに減少したものの、小型貨物（＋1.0%）は3か月ぶりの増加、軽貨物（＋6.1%）は2か月ぶりの増加。

公共工事：横ばい

7月の公共工事請負件数は前年比19.3%増で2か月ぶりの増加。請負額は28.5%増で2か月ぶりの増加。請負額増加の要因は、昨年度、県土整備部（県）において「三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場」関連の大型工事があった影響等により減少したものの、中日本高速道路(株)（独立行政法人等）において「新名神高速道路」関連、津市（市町）において「南郊中学校」、「津興橋大規模更新事業」、「津市久居消防署南分署」関連、松阪市（市町）において「鎌田中学校」、「庁舎本館空調設備」関連の大型工事があった影響等による。

輸出入：輸出は一進一退／輸入は上向き傾向

6月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）＋津港）の通関輸出額は、前年比9.8%増で2か月連続の増加。3か月後方移動平均では8か月ぶりの増加。主要港である四日市港は9.8%増で2か月連続の増加。品目別では科学光学機器、半導体等電子部品などが減少したものの、鉱物性タール及び粗製薬品、有機化合物、自動車の部分品などが増加。県内2港の通関輸入額は、42.5%増と3か月連続の増加。

生産活動：回復

5月の鉱工業生産指数（季調済）は144.9で前月比4.8%上昇と2か月連続の上昇、原指数は133.6で前年比6.7%上昇と14か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、生産用機械、金属製品、その他工業などで低下したが、電子部品・デバイス、食料品、プラスチック製品などが上昇。在庫指数（季調済）は120.7で、前月比2.4%上昇と2か月ぶりの上昇。

雇用情勢：高水準続く

6月の有効求人倍率（季調済）は1.75倍で、前月比0.06ポイント上昇。61か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.63倍で、前月比0.27ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると、宿泊業、飲食サービス業、サービス業（他に分類されないもの）などは前年比減少したが、建設業のほか、電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、輸送用機械器具などの製造業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、医療、福祉などは増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.08倍（前年差＋0.09ポイント）で前年を上回って推移し、12か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

平成30年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）「2018 彩る感動 東海総体」が7月26日から始まった。全国、9つのブロックで持ちまわり開催しており、今年度は三重県が幹事県となり、東海ブロックで開催されている。三重県での開催は、1973年（昭和48年）以来45年ぶり。

大会期間中、三重県では8市町において15種目、愛知県では7市町で6種目の競技が開催され、8月20日に全種目が終了する。